桶川市立桶川小学校

そんなこと、先生だって知らないぞ！

そうだ!! 博物館に相談だ！

そんなこと、本当にできるの？！

桶小のキャラクター
カタバミちゃん

困ったときのスーパーヒーロー!!

おお！そうすれば上手に作れるんだ！

土蔵の作り方が分からず困ってます・・

☆地域一体型授業☆

博物館が
地域の人材（プロ）
を紹介！

実物の土器を使った拓本

実物の土器と直接触れ合う

土から作る土器作り

子どもたちが本物と出会えるチャンス！

本物と出会い、

1年生 図工
「見て！座って！触って！お気に入りのイス」
鑑賞をして描こう！
県立近代美術館と連携

2年生 生活
「みんなで使う　町の施設」
桶川にある博物館に行ってみよう！
さいたま文学館と連携

3年生 総合
「桶川博士になろうパート1」
桶川の紅花を知ろう！
桶川市歴史民俗資料館と連携

4年生 図工
「知ってる？ピカソ！」
鑑賞をして描こう！
県立近代美術館と連携

5年生 総合
「桶川博士になろうパート2」
桶川の歴史を知ろう！
桶川市歴史民俗資料館と連携
県立歴史と民俗の博物館と連携

6年生 社会
「縄文のむらから古墳のくにへ」
桶川の歴史（縄文時代）を知ろう！
桶川市歴史民俗資料館と連携

本物を知り、

本物から学ぶ！

～生き生きとした授業を展開するために～

博学連携スクールカリキュラム

～生き生きと活動する児童を育成するために～

博学連携を成功させる

虎の巻

一、博物館を地域人財と学校を繋ぐコーディネーター的役割として活用する

地域には教師の知らない様々な団体があります。その団体と関係をもっているのが博物館。博物館の人脈を活用して、地域人財を活用することで教育効果の高い授業が行えます。

二、教科等横断的な授業を展開する

博物館は様々な地域の人財とつながっています。地域を学びの場として、社会科だけではなく、様々な教科との連携を図った学習が可能です。今回は土器作り（図工）、ご飯炊き（家庭科）、紅餅作り（理科）で協力を得ました。

三、児童以上に教師が楽しく学ぶ

児童の問題解決の答えを、教師がすべて用意することは困難です。打合せや児童の活動を見ながら、次はどんなことができるだろうと、共に楽しみながら活動をします。教師も知らないからこそ、活動の幅は広がります。答えは博物館と連携することでおのずと見つけられるので心配いりません。

楽しむ

教師自身が「新しいことを知ろう」と意欲をもつことで、児童の様々な活動が生き生きとします。

教科等横断的な視点

実際に物作りを行うことを通して、理科的な視点、図工的な視点から縄文時代や江戸時代の生活について深く考えることができました。

桶川博士になろうパート2（5年生）

課題設定　探究課題をつかむための体験

本物と出会う体験
桶川宿巡り
桶川で出土した土器との出会い

博物館職員等による説明

情報収集　課題解決のための体験・調査

調べ、実際に作ってみる
縄文土器、縄文時代の武器、住居
江戸時代の土蔵づくり、着物

整理・分析　課題解決のための本物との比較

本物と自分の作品を比較し、パワーアップさせる
桶川土器の会との土器作り
ガイドボランティアによる土蔵の説明

博物館から紹介を受けた団体との連携

まとめ・表現　実社会への発信

桶小フェスタ（発表会）の開催
地域の方を招き、桶川の自慢をする
公民館等での展示

博物館職員等を桶小フェスタへ招待

コーディネーターとしての活用

例えば土器作りには作り方以外に、材料や道具の準備が必要。ただ、学校では用意できません。そんな時は、博物館に連絡してどうすればよいか相談します。今回は、「桶川土器の会」の皆さんを紹介していただき、材料、道具等の相談にのってもらいました。

学校と博物館・美術館とをつなぐ

学びのデザイン

桶川市立桶川小学校のデザインの特徴
①博物館職員の役割が明示されている。
②学習活動に即した体験活動を配置している。

博物館・美術館と授業をつくる「博学連携年間スケジュール」

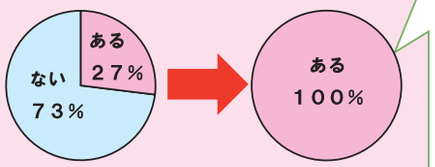
前年度3学期	4月	5月	6月	7月	8月～10月	3学期
博物館との打合せ①（単元や本時の授業の意図を説明）	ガイドボランティアとの打合せ	桶川宿巡りの実施	博物館職員による土器体験の実施	実施後の相互評価	博物館との打合せ②（児童の探究課題を報告・解決方法の検討）	「桶川土器の会」による土器作り教室 博物館・ガイドボランティアによる助言タイム	桶小博物館の実施・博物館職員等を招く	博物館との打合せ③（年間の相互評価と来年度の協力依頼）

一年目

二年目
1年目の成果をふまえて電話で打合せる
省略
※1年目で課題をいくつかに絞る
電話で1年間の成果と課題を共有する

博　学　連　携　の　成　果

① 桶川を自慢できるようになった児童数の変化



桶川市について自慢できることがありますか。（授業前）

桶川市について自慢できることがありますか。（授業後）

こんなに成果があるならやるしかない！

②表現方法の質の高まり　激熱

実際に体験したからこそ、学習成果の発表も真剣になります。どうすれば相手に伝わるか、児童が表現方法を考え練習を重ねて発表会に臨みました。

また、博物館等の施設に作品を飾り、児童の自信も高まりました。

③ 地域人材の効果的活用

地域人材を活かし、児童が本物と関わる時間を増やすことは、児童の学習意欲を高めることにつながりました。児童は、目を輝かせて活動し、地域への関心も高まり、地域の行事への参加も増えました。